

2021年11月22日

株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ

Net Zero Banking Alliance における「Financing & Engagement」作業部会の議長就任について

株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ（代表執行役社長 ^{かめざわ ひろのり} 亀澤 宏規、以下 MUFG）は、今般、「Net Zero Banking Alliance（NZBA）」において、トランジション・ファイナンスに関する具体的な枠組み作りを担う、「Financing & Engagement」作業部会（以下 本作業部会）の議長を担うことに決まりました。

NZBA は、Glasgow Financial Alliance for Net Zero^[1]（GFANZ）の一部として、2021年4月に世界43の銀行で発足した、国連環境計画金融イニシアティブ（UNEP-FI）が主催するアライアンスです。現在、加盟する金融機関数は94にまで増加しています。

MUFG は、2021年5月に「MUFG カーボンニュートラル宣言^[2]」を公表するとともに、同年6月に国内金融機関で最初にNZBAに加盟しました。NZBAへの加盟後は、加盟金融機関の中から地域毎に選出された12の銀行で構成されるステアリンググループ^[3]にアジア代表の1銀行として選出され、NZBAの運営を他のステアリンググループのメンバー銀行とともに担ってまいりました。

NZBA は、科学的根拠に基づく温室効果ガス（以下 GHG）排出量削減の中長期目標の設定やそれに対する進捗の開示等を通じて、2050年までに投融资ポートフォリオにおけるGHG排出量ネットゼロを目指しています。すべての参加金融機関が投融资ポートフォリオにおけるGHG排出量ネットゼロの達成にコミットしていますが、具体的にどのようなシナリオや指標を用いるべきか、各金融機関の公表する行動計画を客観的に比較出来るのか等の課題も存在します。このような課題を解決するために、NZBAでは複数の作業部会が立ち上げられ、メンバー間で具体的な検討を進めることとし、そのうち、MUFGはトランジション・ファイナンスについて具体的な枠組み作りを担う、本作業部会の議長を務めることとなりました。本作業部会では、お客さまとのエンゲージメントやトランジション・ファイナンス推進に向けたガイドラインの協議等を行ってまいります。

MUFG は、トランジション・ファイナンスは2050年カーボンニュートラルを達成するための重要な柱であると考えており、本作業部会の議長という立場で銀行が脱炭素に貢献するためのグローバルな枠組み作りの議論に積極的に貢献してまいります。

[1] 2021年4月の米国政府主催の気候リーダーズサミットにおいて、マーク・カーニー氏が提唱し立ち上がった、金融界が業態別にネットゼロを主導するイニシアティブを統合した企業連合

[2] MUFGカーボンニュートラル宣言については、以下のリンクをご参照ください。

https://www.mufg.jp/dam/pressrelease/2021/pdf/news-20210517-003_ja.pdf

[3] NZBAのステアリンググループについては、以下のリンクをご参照ください。

<https://www.unepfi.org/net-zero-banking/members/governance/>

以上